



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月2日

上場会社名 (株)東京放送ホールディングス
コード番号 9401 URL <http://www.tbsholdings.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 俊爾

問合せ先責任者 (役職名) 経理局経理部長 (氏名) 伊藤 博信

TEL 03-3746-1111

四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	259,592	△0.1	10,010	36.6	12,203	30.6	12,019	570.0
23年3月期第3四半期	259,780	△2.9	7,326	11.7	9,345	26.3	1,793	△13.2

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 13,867百万円 (—%) 23年3月期第3四半期 △5,337百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	76.28	—
23年3月期第3四半期	9.44	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	533,373	310,828	55.7
23年3月期	593,023	344,658	56.4

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 296,823百万円 23年3月期 334,310百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	3.00	—	3.00	6.00
24年3月期	—	5.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	344,500	0.5	10,500	36.3	12,500	35.6	11,000	—	70.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 株式会社BS-TBS 、除外 1社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	190,434,968 株	23年3月期	190,434,968 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	38,225,039 株	23年3月期	453,652 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	157,566,881 株	23年3月期3Q	190,004,788 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 補足情報	10
(株)TBSテレビ第3四半期事業収入の内訳	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

日本銀行が昨年末に公表した金融経済月報によりますと、日本経済は、国内需要面では、東日本大震災で被災した設備の修復など、設備投資が緩やかな増加基調にあり、また、個人消費も、底堅く推移しました。その一方、海外経済の減速や円高に加え、タイの洪水の影響もあり、輸出や生産は横ばい圏内の動きとなっています。全体として、企業の業況感については、改善の動きが鈍化し、上半期までにみられた持ち直しの動きが一服しつつあります。

このような経済環境の中、当社グループは、各セグメントにおいて収益の確保に努めるとともに、コストコントロールを継続いたしました。この結果、第3四半期連結累計期間の売上高は2,595億9千2百万円（対前年同期比0.1%減）、営業利益100億1千万円（同36.6%増）、経常利益122億3百万円（同30.6%増）、四半期純利益は、関係会社株式売却益の計上等もあり、120億1千9百万円（同570.0%増）となりました。

<放送事業セグメント>

テレビの放送事業収入のうち、株式会社TBSテレビの当第3四半期連結累計期間のタイム収入は、大型単発番組の放送が、前年に比べ減少したという要因もあり、643億3千9百万円で前年同期比3.2%減となりました。

一方、スポット収入は、619億円で前年同期比0.5%増となりました。スポット収入は、東日本大震災の影響で、第1四半期は、前年同期比で9.9%減の落ち込みとなりましたが、夏以降回復傾向にあり、第2四半期は同1.2%増、10-12月の第3四半期は、タイの洪水の影響等も懸念される中、同9.7%増まで売上を伸ばしました。TBSテレビの在京5局間のスポット売上シェアは19.8%（前年と同じ）でした。

TBSテレビの当第3四半期連結累計期間の視聴率は、「みのもんたの朝ズバッ！」「ひるおび！」「Nスタ」などの平日帯番組の好調を受け、全日帯視聴率が6.8%と前年同期比で0.3ポイントアップとなったことをはじめ、ゴールデン帯10.0%（同0.4ポイント増）、プライム帯10.1%（同0.3ポイント増）といずれの時間帯も上昇しています。

ドラマでは、日曜劇場で木村拓哉さんほか豪華キャストで「開局60周年記念ドラマ『南極大陸』」を放送し、初回22.2%、平均で18%の視聴率を獲得することができました。また、バラエティ番組では、「ひみつの嵐ちゃん！」「ぴったんこカン・カン」「中居正広の金曜日のスマたちへ」などの番組が、引き続き好調な視聴率をあげております。

スポーツ番組では、11月15日にFIFAワールドカップ3次予選「日本対北朝鮮」の試合を放送しました。北朝鮮からの生放送かつハイビジョン中継は史上初であり、平日夕方からの放送にもかかわらず、15.5%の視聴率を獲得することができました。

報道番組では、TBS開局の日となる12月25日に「報道の日2011」と題して、東日本大震災をはじめ、政治・経済・国際問題など多岐にわたって様々なことが起こった一年を15時間にわたる放送時間で総括しました。

この他、特筆すべき番組として、関東地区で放送されたドラマ「ムーンケーキ」があげられます。TBSテレビと、シンガポールの総合メディア企業・メディアコープの共同制作によるもので、昨年締結した両社の業務提携第一弾となりました。

ラジオ部門では、株式会社TBSラジオ&コミュニケーションズが、12月の聴取率調査において63期連続聴取率トップの記録を更新しました。「森本毅郎・スタンバイ！」「大沢悠里のゆうゆうワイド」は変わらずに時間帯トップを維持しており、「小島慶子キラ☆キラ」「荒川強啓デイ・キャッチ！」も堅調な推移をみせています。

なお、東日本大震災においてラジオは貴重な情報源となり、ライフラインとして不可欠なメディアであったことに鑑み、11月に岩手放送、東北放送、ラジオ福島を通じて3県に合計690台のラジオをお届けしました。営業面では、タイム収入45億2百万円（前年同期比4.0%減）、スポット収入18億1千5百万円（同1.4%増）でした。

BSデジタルの放送事業者である株式会社BS-TBSは第2四半期連結会計期間から連結子会社となっております。12月のBSデジタル放送視聴可能世帯数は、3,869万世帯・普及率72.3%となり、BS-TBSの当第3四半期連結累計期間の売上高は82億8千2百万円（前年同期比19.9%増）、営業利益は11億4千7百万円（同54.5%増）でした。また、財務健全化のため、10月1日を効力発生日として減資を行い、340億円あまりの累積損失を一掃しております。

放送事業の売上高は1,513億3千9百万円（前年同期比1.4%増）、営業利益は9億4千6百万円（前年同期は11億7千万円の営業損失）となりました。

<映像・文化事業セグメント>

映像・文化事業では、催事として「世界遺産「ヴェネツィア展」魅惑の芸術一千年の都」が江戸東京博物館で開催され、15万人を超える入場者を集めました。地上波テレビで放送された「美男ですね」の舞台も4万6千人以上を動員し、大変好評でした。

映画では、「源氏物語 千年の謎」が1月末時点で、興収13億7千万円、動員114万人と堅調な数字となっております。また、アニメ映画として12月に公開された「けいおん！」は興収16億円、122万人を動員する大ヒットとなりました。

DVDは、ドラマ「美男ですね」の初回スペシャルが4万5千セット、BOXが4万セットと、レンタルも合わせた売上は5億円を超えるメガヒットとなりました。さらに、11月に予約限定で発売した「3年B組金八先生DVDコンプリートボックス」も大きな話題を呼びました。

11月には「TBSオンデマンドAndroid」を開始しました。これは「TBSオンデマンド モバイル」に続く2つ目の自社配信サービスになり、急激に普及するスマートフォン向けの対策を強化しました。

映像・文化事業の売上高は967億7千6百万円（前年同期比1.3%減）、営業利益40億7千6百万円（同45.2%増）となりました。

なお、既にお知らせしておりますが、平成23年12月2日付で、当社および株式会社B S-TBSは、保有する株式会社横浜ベイスターズ株式の一部を株式会社ディー・エヌ・エーに譲渡いたしました。これに伴い株式会社横浜ベイスターズは、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲から外れております。

<不動産事業セグメント>

赤坂サカスでは、「夏サカス2011～笑顔の扉」と題して、かつての人気番組から現在の番組まで、TBS60年の歴史を感じられるアトラクションを設置しました。震災後ということもあり、東北の観光誘致や特産品の販売など、様々な形で被災地への復興支援も行いました。また、4回目を迎えた冬のイベント「White Sacas」も多くの方にご来場いただいております。2008年3月のオープン以来、サカス地区への累計来場者数は2,800万人を上回りました。

不動産事業の売上高は114億7千6百万円（前年同期比7.8%減）、営業利益49億8千9百万円（同12.3%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ596億5千万円減少し、5,333億7千3百万円となりました。楽天株式会社からの自己株式の買取りが完了したことにより預け金が488億7千5百万円減少したこと、有形固定資産が減価償却等により61億8百万円減少したこと、投資有価証券が時価の下落等により41億9千7百万円減少したことなどによります。

負債合計は258億1千9百万円減少し、2,225億4千4百万円となりました。短期借入金が返済等により167億2千2百万円減少したこと、繰延税金負債が27億9千1百万円減少したことなどによります。

純資産合計は、338億3千万円減少し、3,108億2千8百万円となりました。楽天株式会社からの自己株式の買取り等により自己株式が488億7千5百万円増加したこと、四半期純利益の計上等により利益剰余金が107億2百万円増加したことなどによります。

この結果、自己資本比率は55.7%、1株当たり純資産は1,950円9銭となっております。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の通期の業績につきましては、グループ全体で堅調に推移しており、売上高、営業利益、経常利益は前回予想をやや上回る見込みです。また、当期純利益につきましては、平成23年12月2日に公表したとおり(株)横浜ベイスターズ株式譲渡による特別利益の計上により、前回予想を大幅に上回る見通しとなったため、平成23年10月31日に公表した業績予想を下記の通り修正いたします。

また、四半期会計期間末における投資有価証券の減損処理につきましては、洗替え方式を採用しているため、各期末日の時価により特別損失の額が変動いたしますが、第3四半期連結累計期間で計上いたしました額と同額と仮定しております。

なお、配当予想については、今後の業績の推移等を見極めたうえで改めて検討することとし、現時点におきましては、平成23年5月12日に公表した通りの配当予想とさせていただきます。

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円	銭
平成23年10月31日発表(A)	343,000	9,500	11,000	4,600	29	61
平成24年2月2日発表(B)	344,500	10,500	12,500	11,000	70	41
増減額(B-A)	1,500	1,000	1,500	6,400	—	—
増減率	0.4%	10.5%	13.6%	139.1%	—	—
前期実績	342,754	7,705	9,215	103	0	54

2. サマリー情報（その他）に関する事項

当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

持分法適用関連会社であった株式会社B S - T B Sは、平成23年7月1日付けで、当社の株式追加取得により当社の子会社となったため、第2四半期連結会計期間より、同社を連結子会社としております。

また、当社及び当社の連結子会社である株式会社B S - T B Sは、平成23年12月2日、各社が保有する当社の連結子会社、株式会社横浜ベイスターズの株式の一部を譲渡し、持分比率が低下したため、当第3四半期連結会計期間より、同社を連結の範囲から除外しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	71,510	20,159
受取手形及び売掛金	33,496	36,909
有価証券	—	48,999
商品及び製品	7,006	7,372
番組及び仕掛品	6,305	7,185
原材料及び貯蔵品	778	874
前払費用	8,890	7,864
繰延税金資産	1,946	2,436
預け金	48,875	—
その他	6,212	6,426
貸倒引当金	△97	△108
流動資産合計	184,924	138,119
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	190,577	190,011
減価償却累計額	△75,535	△78,247
建物及び構築物（純額）	115,041	111,763
機械装置及び運搬具	85,651	83,397
減価償却累計額	△74,758	△74,337
機械装置及び運搬具（純額）	10,892	9,059
工具、器具及び備品	21,076	22,006
減価償却累計額	△18,504	△19,632
工具、器具及び備品（純額）	2,571	2,374
土地	84,720	84,552
リース資産	6,610	6,645
減価償却累計額	△2,933	△3,361
リース資産（純額）	3,677	3,283
建設仮勘定	3,322	3,085
有形固定資産合計	220,227	214,119
無形固定資産		
ソフトウェア	4,796	4,455
のれん	25,571	24,367
リース資産	441	495
その他	2,095	1,921
無形固定資産合計	32,905	31,239
投資その他の資産		
投資有価証券	139,958	135,760
長期貸付金	338	350
繰延税金資産	2,370	2,129
長期前払費用	1,649	1,123
その他	11,216	11,102
貸倒引当金	△567	△571
投資その他の資産合計	154,965	149,894
固定資産合計	408,098	395,253
資産合計	593,023	533,373

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	32,548	32,585
短期借入金	36,722	20,000
1年内返済予定の長期借入金	1,750	1,750
1年内償還予定の社債	20,000	—
未払金	9,886	8,776
未払法人税等	2,757	1,611
未払消費税等	764	781
未払費用	6,052	3,004
役員賞与引当金	114	65
その他の引当金	885	612
その他	5,577	6,378
流動負債合計	117,058	75,565
固定負債		
社債	30,000	50,000
長期借入金	58,750	57,875
退職給付引当金	12,573	12,881
リース債務	3,064	2,472
繰延税金負債	10,406	7,615
その他	16,510	16,134
固定負債合計	131,305	146,979
負債合計	248,364	222,544
純資産の部		
株主資本		
資本金	54,986	54,986
資本剰余金	60,254	60,254
利益剰余金	211,948	222,651
自己株式	△96	△48,971
株主資本合計	327,094	288,921
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,399	8,903
繰延ヘッジ損益	△1,002	△787
為替換算調整勘定	△180	△214
その他の包括利益累計額合計	7,216	7,902
少数株主持分	10,348	14,004
純資産合計	344,658	310,828
負債純資産合計	593,023	533,373

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	259,780	259,592
売上原価	185,361	183,120
売上総利益	74,419	76,471
販売費及び一般管理費	67,092	66,461
営業利益	7,326	10,010
営業外収益		
受取利息	82	52
受取配当金	2,609	3,167
持分法による投資利益	373	83
その他	812	582
営業外収益合計	3,876	3,886
営業外費用		
支払利息	1,271	1,073
固定資産除却損	165	169
その他	419	450
営業外費用合計	1,856	1,693
経常利益	9,345	12,203
特別利益		
関係会社株式売却益	—	5,959
段階取得に係る差益	—	210
投資有価証券売却益	6,814	4
特別利益合計	6,814	6,174
特別損失		
投資有価証券評価損	10,658	1,609
早期割増退職金	—	333
ゴルフ会員権評価損	—	241
固定資産除却損	—	149
減損損失	19	102
退職給付制度改定損	38	20
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	516	—
特別損失合計	11,233	2,457
税金等調整前四半期純利益	4,927	15,920
法人税、住民税及び事業税	2,093	2,523
法人税等調整額	780	212
法人税等合計	2,873	2,735
少数株主損益調整前四半期純利益	2,053	13,184
少数株主利益	259	1,165
四半期純利益	1,793	12,019

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,053	13,184
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,784	503
繰延ヘッジ損益	△531	214
為替換算調整勘定	△75	△35
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△0
その他の包括利益合計	△7,391	683
四半期包括利益	△5,337	13,867
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△5,588	12,705
少数株主に係る四半期包括利益	250	1,162

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日至平成22年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額 (注2)
	放送	映像・文化	不動産	計		
売上高						
外部顧客への売上高	149,267	98,070	12,442	259,780	—	259,780
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,040	3,045	5,110	9,195	△9,195	—
計	150,307	101,116	17,552	268,976	△9,195	259,780
セグメント利益又は損失(△)	△1,170	2,808	5,689	7,327	△1	7,326

(注) 1. セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額 (注2)
	放送	映像・文化	不動産	計		
売上高						
外部顧客への売上高	151,339	96,776	11,476	259,592	—	259,592
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,096	3,283	5,047	9,427	△9,427	—
計	152,436	100,059	16,524	269,020	△9,427	259,592
セグメント利益	946	4,076	4,989	10,012	△1	10,010

(注) 1. セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成23年5月10日に楽天株式会社から488億7,528万5,800円で自己株式を37,770,700株を取得いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、単元未満株式の買取を含めて自己株式が488億7千5百万円、37,771,387株増加しております。

4. 補足情報

株TBSテレビ第3四半期事業収入の内訳

(単位：百万円)

	前第3四半期 (22.4.1~22.12.31)	当第3四半期 (23.4.1~23.12.31)	増減		前事業年度 (22.4.1~23.3.31)
	金額	金額	金額	増減率	金額
テレビ	137,192	134,671	△2,521	△1.8%	180,614
タイム・番組制作	66,469	64,339	△2,129	△3.2%	86,553
スポット	61,607	61,900	292	0.5%	82,160
その他	9,116	8,431	△684	△7.5%	11,899
事業	20,611	19,791	△820	△4.0%	27,633
不動産	2,176	2,167	△8	△0.4%	2,902
合計	159,980	156,630	△3,350	△2.1%	211,150